

平成 28 年度 第 2 回 安曇野暮らし支援協議会 会議概要

1	<u>審議会名 平成 28 年度 第 2 回 安曇野暮らし支援協議会</u>
2	<u>日 時 平成 29 年 3 月 27 日 (月) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで</u>
3	<u>場 所 安曇野市本庁舎 3 階 共用会議室 305</u>
4	<u>出席者 中澤 美穂委員、堀井 三郎委員、高井 健慈委員、望月 彰委員、 宮崎 崇徳委員、横田 耕太郎委員、上条 洋委員、中村 拓男委員 事務局 関政策経営課長、北條企画担当係長、企画担当主査丸田、地域おこし協力隊高尾</u>
5	<u>公開・非公開の別 公開</u>
6	<u>傍聴人 記 者 0 人 傍聴者 1 人</u>
7	<u>会議録作成年月日 平成 29 年 4 月 5 日</u>
協議事項等	
次第	
1	開 会
2	あ い さ つ (望月会長)
3	報 告 事 項 (議事進行：望月会長) (1) 平成 28 年度事業報告について (2) おためし住宅の利用状況について (3) その他
4	協 議 事 項 (議事進行：望月会長) (1) 平成 29 年度事業計画 (案) について (2) その他
5	閉 会
会議概要	
1	報 告 事 項 (1) 平成 28 年度事業報告について (事務局より報告) 資料 1 ページから 3 ページに基づき説明。今年度開催した移住セミナーや現地体験会の実績、部会の回数、移住促進パンフレットのリニューアル事業などを報告。セミナー等を開催するためには、金額がかかることを確認いただき、今後の企画を進める上での参考にしていただきたい。
委 員	：三市合同セミナーの会場使用料が安曇野市単独で開催するセミナーよりも突出している。今回たまたま理由があったのか、それとも今後三市合同移住セミナーをやる上でこれくらい会場使用料がかかるということか。
事務局	：ふるさと回帰支援センターより多くの参加者が見込まれるため広い会場を使用した方がよいとご提案をいただき、東京交通会館 3 階のグリーンルームを使用した。総務省が東京八重洲口に開設している移住交流ガーデンも会場の候補として挙がっていたが、日程等の都合でグリーンルームを使うことになった。通常グリーンルームの使用料は 20 万円以上かかるが、3 か月前の予約により割安で借りられた。なお、三市合同セミナーの開催経費の半分には、地方創生推進交付金を充当している。
会 長	：この金額は一市あたりの金額なのか、それとも三市分まとめて安曇野市が支払ったのか。

事務局：三市分まとめた金額である。安曇野市が口火を切ったため、安曇野市が持った。今後は三市持ち回りで開催することも検討していく。

(2) 安曇野市おためし住宅の利用状況について（事務局より報告）

資料4ページに基づき、平成29年3月27日時点までのおためし住宅の利用状況と、収支について説明。

(3) その他（事務局より報告）

あづみ農協の樽沼委員と安曇野市観光協会の後藤委員、松本地方事務所の上条委員がそれぞれ退任。後任については、あづみ農協と安曇野市観光協会、松本地域振興局に推薦を依頼する。また、県の組織改編により松本地方事務所が松本地域振興局に名称変更したことに伴い、要綱を改正する。

2 協議事項

(1) 平成29年度事業計画（案）について（事務局より報告）

移住セミナーの開催と内容、現地体験ツアーの開催、空き家バンクの周知と活用、おためし住宅の利用条件緩和、その他として移住者交流会の開催、移住体験談や区活動など移住希望者への情報発信の充実を提案。

委員：今年度も東京での三市合同移住セミナーの開催を予定しているとあるが、東京でのセミナーは市単独での開催でもかなりの数が集まる。今後三市合同移住セミナーを開催するならば、普段PRしにくい場所で開催することも検討してはどうか。

事務局：三市合同移住セミナーの開催趣旨は、移住希望者に広い視野を持って三市それぞれへの移住を検討していただくことであり、まだ一回しか開催していないこともあるため、合同開催が定着するまでは東京での開催を続けたい。

委員：承知した。

事務局：6月10日の安曇野暮らしセミナーについては、仕事や子育てなどテーマを絞ったセミナーを開催したいと述べたが、夏の安曇野体験会についても同様に、何かに特化したものにしたいと思う。

会長：夏の安曇野は観光ですでに訪れられている方も多いので、特色ある体験会を開催することは良いことだと思う。

事務局：働く場所がないことが移住者の定着難に繋がる一因であるため、商工会や市内の企業と連携し就労にテーマを絞ったような体験会を行いたいと思う。

委員：企業によって夏休みの期間が異なるため、具体的な日程を決めるのは難しいのではないかと。

会長：セミナーや体験会の内容や日程はセミナー部会を開催し決めることとする。

委員：空き家バンク仲介事業者の登録状況はどうか。

事務局：現在、設置要綱に照らし合わせて申請のあった業者の審査を行っている。今後も随時審査を行い、審査をクリアした業者から随時空き家バンク仲介事業者として登録を進めたい。

会 長：空き家バンクの利用登録者へセミナーなどのお知らせは郵送で行うのか。

事務局：メールマガジンなどの形式で一斉送信を検討したい。また、協議会からの情報発信だけでなくおためし住宅の利用者などにも、安曇野滞在中の体験したことなどを発信していただける環境を整えていくことも検討したい。

会 長：おためし住宅の利用要件に空き家バンク利用登録者とあるが、例えば土地を探している利用希望者への対応はどうするか。

事務局：従来の利用要件では、利用希望者は市役所や県の出先機関などに相談に行かなくてはならない。空き家バンクの利用登録はネット上ですぐでき手間を省くことができるため、要件に追加した。土地を探している方については、従来の利用要件に当てはまれば利用可能である。なお現在、おためし住宅は教員住宅を活用する形で運用しているが、将来的に空き家バンクが軌道に乗り、賃貸物件の中でおためし住宅として貸してもよいという業者が現れた場合、利用者には市のおためし住宅よりそちらを積極的に利用してもらいたい。

会 長：移住者交流会はどのような場で検討していく予定か。

事務局：セミナー・ツアー部会で検討する。一つの会場に集まって交流するのではなく、体験を通じた交流を検討していきたいが、ふるさとづくり応援団などの活動に被るおそれはないか。

委 員：移住者も地元の方も一緒になって街を歩いて廻って交流することを活動として行っている。仮に市がそういった形の交流会を企画したとして支障はないと思う。先日の体験会でのおやき作り体験のように、何かを一緒に体験することで参加者同士の交流の輪が広がると思う。

事務局：移住者だけで集まるのも良くないので、地元の方を交えたものにしていきたい。

委 員：移住者のみで集まるとどうしても地元批判になってしまうし、地元の人との間にも壁を作ってしまうため、良くない結果になりがちである。移住者のみを集めることは考えない方がよい。

事務局：交流会を開催するにあたっては、ふるさとづくり応援団の方々にご協力いただくことが一番よいと考えるが、地元の方をどう呼び込むかが課題である。地元の方にも参加してもらいやすい催しやアイデアがあれば事務局にお寄せいただきたい。

委 員：28日に空き家バンクを開設しひと段落するが、空き家バンクの活用がこれからの課題だ。特に県外の人が所有する空き家の情報や状況を知る必要がある。市報だけでは県外に発信できないため、ホームページに開設のお知らせを掲載してはどうか。また、先日視察した米原市のように、固定資産税の課税通知書に空き家バンクのお知らせを同封することも検討してはどうだろうか。

事務局：課税通知書については、今年度は間に合わなかったが、来年度については担当部署に相談し同封できるように積極的に進める予定だ。

会 長：米原市も課税通知書にお知らせを入れたことで情報量が増えた、と話していた。空き家を所有する人に情報が行き渡ることが大事だと思うので、それ以外の方法でも所有者の目に触れるような告知方法を検討していきたい。

委 員：諏訪市でも課税通知書に空き家相談会の広報を同封した後、かなりの反響があったという。安曇野市空家等対策協議会でも同様の動きがあるため、空き家バンクと空き家相談会を同時に周知することも検討してはどうか。現在建築士会が中心となって空き家相談会を開催しているが、新年度からは環境課が開催することになったため、これを機に連携してはどうだろうか。

委 員：いきなり空き家バンクへ流通させるよりも、まずは空き家相談会で利用できるのか取り壊すべきかを考えてもらうことが先だと思う。

事務局：空き家相談会でまず相談してもらい、使えそうな空き家については空き家バンクを紹介する、というように段階を踏んだ方がトラブルは少ないと思う。

会 長：市の空き家バンクは、空き家を所有する人が不動産業者に頼んで空き家バンクに登録してもらうシステムなので、まずは空き家相談を受けてもらうことが合理的ではないだろうか。

委 員：空き家の所有者は空き家バンクの全体像を把握できていない。物件がどういう過程で空き家バンクに掲載されるのかを理解してもらう必要がある。市の空き家バンクは物件の掘り起こしより不動産業者の持つ情報を一元化し提供することがメインなので、それを周知することが大切だ。

会 長：引き続き空き家バンク部会で検討していきたい。

委 員：おためし住宅は土日の貸し出しは難しいか。

事務局：契約を結んだ後、利用料金を全納していただくため、会計の都合上開庁日以外の対応は難しい。その代わりに要綱を改正し、来年度からは鍵の返却を土日祝日も対応可能とする。

委 員：利用日数と料金が確定しているのであれば、納付書を事前に郵送し納付書払いにすることは可能ではないだろうか。

事務局：今年度の利用状況や要望をみて検討していきたい。

委 員：情報提供だが、今年度信州中古住宅流通ネットワークが国庫補助を受けて、空き家のストック情報事業を行っている。今年度は筑北村と連携して、国庫を利用し空き家をテーマにしたセミナーを開催した。来年度は協力市町村を拡大して事業を継続する予定である。もし差支えなければ、協力市町村として安曇野市も加わることを検討していただきたい。国庫を利用して空き家をテーマにしたセミナーやツアーを開催することができるのでメリットのある話だと思う。

事務局：平成 29 年度で住ま居る応援制度が終了するため、それに代わる制度を考えていかななくてはならない。空き家バンクも開設するので、空き家をリフォームして再利用する補助制度など、できるだけ手厚い制度を整え、特に若い世代に補助制度を活用してもらえよう制度構築を進め、予算化できるようにしたい。アイデアがあれば事務局までお寄せいただきたい。

委員：平成 29 年度の事業計画案は本日承認されれば、このまま計画として進行するのか。それとも年度明けに改めて通知があるのか。

事務局：詳細は未定の部分もあるが、基本的な流れは事業計画案に沿う予定である。

委員：セミナーや体験会の参加者数や空き家バンクの利用者登録数や登録物件数など、来年度の具体的な数値的な目標を設定した方が、年度末に実行率や目標値の達成度合いを確認し、次年度に向けて計画を進めていく事が効果的ではないだろうか。

事務局：計画に対しての評価に目標値は必要であるため、検討したい。

(2) その他（事務局より報告）

空き家バンク開設を機に、全日本不動産協会長野県本部から安曇野暮らし支援協議会に加わって、活動に前向きに参加していきたいとの意向があった。任意組織ではあるが安曇野部会を設置しているとのことなので、協議会に参加いただけるように検討していきたい。

以上